

IV. 特記事項

1. シニア市民大学制度

「地域が大学のキャンパス」を合言葉とする本学では、平成 18(2006)年度より、県内で、他大学に率先してシニア市民大学制度を始めた。この制度の特徴は、まず、学歴に関係なく受験でき、大学教育の豊かさに触れる機会を得られることである。また、2年という比較的短期間で教育を修了するので、参加しやすいことである。さらに、年金生活者でも応募できるように入学金や学費を低く設定している(シニア市民大学制度の募集要項参照)。シニア市民大学制度の目的は、本学が持つ福祉、心理、情報に関わる幅広い知見や技術を、子育てや仕事から自由になったシニア市民層にも開放し、県内を中心とする地域社会におけるシニア層の生きがいと福祉力向上を目指すことである。現在、シニア市民大学制度には2種類のコースがある。シニア市民がこれからの人生において健康で充実した生活を送ることを支援する生涯学習的な自己発見コースと、高齢化時代を生き抜くための介護や福祉に関する知識や技術を身につけ、自分の家族だけではなく、地域社会に貢献しようとする福祉力向上コースである。各年度の入学者は平成 18(2006)年度及び平成 19(2007)年度は6名、平成 20(2008)年度及び平成 21(2009)年度は4名であった。今までの最高齢は入学時68歳であった。この制度は、年齢の高いシニア層の生涯学習支援の一環であるが、シニア層の学生受け入れは、一般の若年学生の修学、教育に関連しても好ましい副次的効果を生じている。当制度では、シニア学生は、一般学生と区別なく、同じ授業を同じ教室で受けるシステムを採用している。その結果、まじめなシニア学生の修学態度をみて、見習う一般学生が増加している。また年齢層が大きく異なる世代間で、コミュニケーションが生じることで、若年学生の高齢者層に対する理解力向上に大きく寄与すると同時に、高齢学生が若年学生からの若々しいメッセージを受け止めることで、高齢学生にとっても新鮮な刺激となるという教育の相乗効果が出現している。さらに、最近では、シニア市民大学制度で向学心に火をつけたシニア学生の中には、四年制大学へ社会人入学または編入学することで、社会福祉関連の国家資格を獲得しようとする学生も増加しつつある。

自己評価

意欲の高い、実践力もあるシニア層が地域福祉に参加すれば、大学は地域の福祉力向上に大きな貢献をすることになる。しかし、現状では、シニア市民大学制度を利用する学生数は一ケタ台で、地域社会に大きな影響力を持つまでには至っていないと考えている。

改善・向上方策(将来計画)

平成 21(2009)年度より、一般の市民層が会話を楽しむ憩いの場所として、“静福サロン”を大学内に開設した。このサロンでは、講演会や研修会なども開催することで、シニア層の知的好奇心の満足や健康維持の技術取得などの役割を果たしている。今後、この静福サロンを地域交流の基地として発展させることで、シニア市民大学制度の存在をさらに多くの市民に周知してもらい、意欲が高い有為なシニア層の福祉的な人材増加を目指したい。

